

# JEAN-FRANCOIS MILLET

ジャン=フランソワ・ミレー(1814~1875)



## 耕す人

エッチング・DEL'ART M13

1855 年作

23.7×33.7cm(羊皮紙刷り)

バルビゾン七星派 ・ 真の農民画家

# 8JEAN-FRANCOIS MILLET

ジャン＝フランソワ・ミレー (1814~1875)



作品名 耕す人(1855年)

種類 エッチング・DE L'ART M13

サイズ 23.7×33.7cm

※ミレーの版画は、油彩やパステルに比較すると数が少ないです  
20点のエッチング、6点のリトグラフ、2点のガラス版画、  
3点の木版画を制作しているにすぎません

※

## 略 歴

- 1814 ノルマンディ地方、グリュシーの裕福な農家に生まれる。
- 1837 ラングロワの推薦によりシェルブール市の奨学金を得てパリへ
- 1840 友人の父を描いた肖像画『ルフラン氏の肖像』がサロンに初入選
- 1846 後のバルビゾン派のトロワイヨン、ディアズ、ジャック、ルソーらと出会う。農村をテーマとした新しい作風に変化していく
- 1853 サロンに『種をまく人』を出品
- 1855 パリ万博に『接ぎ木する人』を出品し好評
- 1855 エッチング作品を制作
- 1857 サロンに『落ち穂拾い』を出品
- 1859 依頼により『晩鐘』を制作。
- 1862 パリ公会堂での美術家連合サークル展に『井戸から戻る女』を出品し評判となる
- 1864 『羊飼いの少女』がサロンで一等賞を受賞
- 1868 レジオン・ドヌール勲章を受章
- 1870 既に米国に収集家があり、デュラン＝リュエルが主要画商となる
- 1875 バビルゾンにて死去。友人ルソーと墓地を隣にして埋葬

二人の農夫が堅い土地を耕している。耕して柔らかい土地にすることで翌年の豊穡をもたらす準備をする。大地から恵みを受けるためには、必要な根源的な行為である。本作品は未完成の油彩画、大きなサイズのパステル画（1866年ボストン美術館蔵）に先行して1855年に制作された。作品に至るまでに、ミレーは多くの関連素描を残している。これらの素描には、一人一人を個別に描いたものと、二人の人物を組み合わせたものがあり、それぞれの人物のポーズと配置を探求したものになっている。この様なプロセスを経て制作された二人の人物像に、背景の表現を加えることで本作品が完成された。本作品はミレーが行った制作上の探究の一つの帰結点となっている。

版画は完成された油彩画の複製のメディアとして使用されることがあったが、本作品はこの例に当てはまらない物であることがわかる。油彩画に先行して版画が制作された同様の例としては、ミレーの代表作《落ち穂拾い》の例を挙げることができる。